

令和5年度 学校評価(保護者用) 回答結果

4～よくあてはまる / 3～あてはまる / 2～あまりあてはまらない / 1～全くあてはまらない / 0～わからない
--

在校保護者

No.	項 目	R4	R5
1	授業は、児童生徒の障害の状態に応じた分かりやすいものになっていた。	3.6	3.7
2	学校・学部行事の数や内容、実施時期は適切であった。	3.5	3.6
3	地震や火災、自然災害など、不測の事態に備えた避難訓練や防災教育を行った。	3.5	3.5
4	児童生徒が学習しやすい環境整備に努め、掲示物や装飾等は児童生徒にとって見やすく、分かりやすいものになっていた。	3.6	3.7
5	「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「寄宿舎個別の指導計画」は、児童生徒の課題や目標・手立て及び評価が分かりやすいものになっていた。	3.7	3.7
6	支援会議や書面会議では目標と評価について交流することができた。	3.6	3.6
7	医療的ケアは、各学部、保健室、事務部が連携、協力して取り組まれた。	3.4	3.6
8	進路や福祉制度・サービスなどの情報は、保護者へ分かりやすく説明していた。	3.4	3.5
9	校舎内外の施設・設備は、安全なものになっていた。	3.6	3.4
10	教職員は丁寧な言葉で接し、児童生徒の心情に寄り添った態度で指導を行った。	3.6	3.6
11	教職員は児童生徒の手本となるように言動、身なり、マナーなどに留意して行動していた。	3.6	3.5
12	学校は児童生徒にけがや病気等が生じたとき、わかりやすく、丁寧な説明を行い、適切に対応した。	3.6	3.6
13	学校は、必要な情報提供や連絡を適切に行った。 (学校便り、学級通信、連絡帳・電話、ホームページなど)	3.6	3.6
14	児童生徒・保護者の個人情報の管理ができていた。	3.7	3.6
15	PTAの活動方針や活動内容は分かりやすく、参加しやすいものになった。	3.4	3.5

【スクールバス利用者のみ回答】

16	スクールバスは、安全に運行され、安心して通学することができた。	3.6	3.7
----	---------------------------------	-----	-----

17	寄宿舎は舎生一人一人の特性に配慮し、自立と社会参加に向けた生活指導が行われた。	3.9	3.7
18	寄宿舎では行事や舎室の活動などをおして、余暇の充実に努めている。	3.9	3.7
19	寄宿舎指導員と学校の教職員は、連携が取れた指導がなされている。	3.9	3.7

訪問保護者

No.	項 目	R4	R5
1	授業は、児童生徒の障害の状態に応じたわかりやすいものになっていた。	3.5	4.0
2	学校は児童生徒の人権を尊重し、生活年齢に応じた言葉遣いで児童生徒に接していた。	3.5	4.0
3	学校は、児童生徒の健康や安全について共通理解を図っていた。	3.8	3.7
4	学校は、教育活動や進路などについて適切な情報を提供していた。	3.3	3.7
5	学校は、適切な指導を行うため、児童生徒の実態や方針などを共有するよう努めた。	3.5	3.7